

池田高校科学部だより

平成27年度まとめ号



UNESCO Associated Schools Network
IKEDA High School

今年度のハリヨ保護活動の成果

平成27年11月15日に池田町主催で開催された「健康・福祉・エコフェアいけだ」で、ハリヨを守る会の方々のブースに、本校科学部が共同出展させていただきました。今までの活動で、地元の貴重な環境を守るため、その価値を発信してゆくという責任感を感じた部員た



ちは、進んで河川生態系のしくみと生物種とその生態

を学習しており、来場者に対してわかりやすく詳細に説明することができました。

平成28年1月25日にはハリヨ生息地にて雑魚や天



守る会と科学部のブース

敵の除去を行いました。ハリヨの特徴として営巣があり、フナなどの雑魚はその巣を攪乱します。私たちは水生生物における食物網（食う食われるの関係性）について独自に調べています。また今回の活動により保護池内への新たな生物（ペットとして飼育されていたであろうオヤニラミ）の不法放流も発見しました。活動終了後には参加者に地元の方々にあたたかい豚汁をふるまっていただきました。ごちそうさまでした。

来場者に中川の生態系を説明



地元の方と協力して雑魚の除去

今年度一年間のハリヨを守る会の方々との活動を経て、守る会の方々と世代を超えて打ち解け、親身に相談しあうことができるようになりました。地域の共通の宝である環境を守るという入り口から、地域の先輩方から価値観を受け継ぎ、この先の地域を担っていく人材となっていきたいと思っています。

科学部のあたらしい活動について

平成27年10月14日に岐阜経済大学の森誠一教授より、「地域環境と地球環境～池田町のハリヨ保護のために今後なにができるか～」というテーマで科学部と2年生の理系クラスの生徒を対象に講演をしていただきました。この講演により私たちは素晴らしい地元の宝に気づき、また宝を守るの

は自分達しかいないということに気づきました。また、これからの活動のヒントも得ました。

このヒントをもとに現在、科学部ではハリヨの生息に必要な環境のデータを取るために定期的にハリヨ生息地における表層と下層の水温調査を行っています。調査により、ハリヨ生息地である中川は、秋から真冬にかけて水温がほぼ15℃～17℃の一定の範囲に保たれていることが示されました。それに対してハリヨの生息がみられない学校近くの東川は、冬に大きく水温が下がっていることがわかります。地下水の水温は年間を通してほぼ変わらないため、豊富な湧き水により水温が保たれることがハリヨの生息にとって不可欠な要因であると推測できます。

		地点①	地点②	地点③	地点④	地点⑤	地点⑥	参考
12/15	上層	16.5℃	17.0℃	16.5℃	15.5℃	16.6℃	16.0℃	12.7℃
	下層	15.5℃	17.5℃	16.0℃	16.0℃	17.0℃	16.0℃	11.6℃
2/15	上層	15.2℃	15.5℃	15.5℃	15.5℃	16.6℃	14.9℃	7.0℃
	下層	15.4℃	16.0℃	16.0℃	15.7℃	16.7℃	15.7℃	8.7℃

表1:ハリヨ生息地である中川の水温データと参考データ(学校横を流れる東川)



罠をしかけている様子

岐阜県揖斐県事務所にて天然記念物に指定されているハリヨ生息地において、平成27年12月よりハリヨを捕獲調査する許可を得ました。私たちは捕獲者の技術差が表れにくいハリヨ捕獲の方法を考え、罠による捕獲を試みました。自作の罠を作り、またハリヨの食性を調べて雑食性のハリヨが好むであろう餌を入れて定点(6か所)に仕掛けました。結果、初回の調査で15匹以上のハリヨを捕獲できました(表2)。継続的な調査が必要ではありますが、12月における捕獲データから冬のハリヨはある程度群れで存在していること、また地点5には成熟度の低い個体が

集まっていることがわかりました。

しかし2月の調査では1匹もハリヨが捕獲できませんでした。2月はハリヨの活性が低くなっていることが考えられます。水温の変化は少ないため、ハリヨの活性に影響を与える原因もこれから考察していきたいと思えます。

	捕獲数	平均体長	最大体長	最小体長
地点1	0	-	-	-
地点2	0	-	-	-
地点3	5	2.8	3.6	2.5
地点4	3	3.3	3.5	2.7
地点5	8	1.8	3.4	1.2
地点6	0	-	-	-

表2:12月における捕獲データ



自作の罠にてハリヨを捕獲